

質問 1-7 大戸川ダムを建設した場合(大戸川河川改修無(現状))、大戸川の治水安全度がどれだけ上がるのでしょうか。

(回答)

- ダムは淀川水系河川整備基本方針に沿って最終形で建設するものであり、施設計画は計画上の操作を前提としています。しかしながら、下流河川の整備状況によっては、最終形の操作ルールでは治水安全度を低下させる場合もあることから、そのような場合は下流河川が所要の安全度で整備されるまでの間は暫定操作ルールにより運用されることとなります。
- 大戸川の河川が現況の状態、大戸川ダムにより治水安全度がどの程度向上するかについては、この暫定操作をどう設定するかによります。暫定操作方法については、ダムからの放流量とダム下流の残流域からの流出量を考慮する必要があり、今後、滋賀県において策定される大戸川の河川整備計画で目標とする洪水規模や洪水パターンを踏まえた上で、関係府県と協議のうえ、操作規則を策定します。
- 仮に、大戸川ダムを 150m³/s 放流の暫定操作として、昭和 28 年台風 13 号で評価した場合、現況の安全度は 1/10 以下ですが、大戸川ダムを整備した場合は 1/20 程度となります。

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。